

# 皮膚科診療におけるパラダイムシフト

皮膚科 主任医長  
野田 利紀

## 皮膚科のいま

皮膚は「人体最大の臓器」と言われており、面積は成人で約1.6㎡（畳1枚分ぐらい）、重さは皮下組織（皮下脂肪）も含めると体重の約16%を占めています。それゆえ、皮膚で起こる疾患も多岐にわたっており、新たな診断法や治療法も開発されています。

一方で、従来からある皮膚疾患や病状に対する考え方、治療法についてもパラダイムシフト（劇的な変化）が起こっています。

## うるおい治療（湿潤治療）

かつて「化膿するから水にはぬらさず、消毒する」、「乾かさないと治らない」と思われていた傷の治療は、2000年代に入って大きく変わりました。主な変化は以下のとおりです。

### ■ 一般的な傷の治療法

かつては…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化膿しないよう消毒する</li> <li>・化膿するから水にはぬらさない</li> <li>・傷口を乾かす</li> </ul>
現在は…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒は使わない</li> <li>・水道水でしっかり洗う</li> <li>・傷口は適度なうるおいを保つ</li> </ul>

水道水でしっかり洗い、傷は適度にうるおった状態を保っておくことが基本です。

その後、より安価で使い勝手の良い創傷被覆材が販売されるようになり、湿潤治療を行うのに不適切な状況（化膿している、血流がないなど）について検討がなされるなどして、今に至ります。

いずれにしても、以前より痛みを起こしにくく、早く治り、ひきつれなどの後遺症を生じにくい治療と言えます。

皮膚科診療では外傷、熱傷（やけど）、褥瘡（とこずれ）などで湿潤治療をおこなっています。また当院では、他科疾患で入院されている患者さんに褥瘡があった場合、褥瘡対策委員会に対応しています。

皮膚科医、WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）、管理栄養士を含むチームで症例の検討・回診を行い、褥瘡の縮小、治癒を目指しています。

また退院後、ご自宅でも同様の処置ができるよう、院内売店にて創傷被覆材や外用剤、皮膚に優しいテープ材など販売しています。

## 食物アレルギーとスキンケア

特に小児の食物アレルギーについては、親御さんが非常に心配される事柄の一つと思います。

かつて、ご家族のアトピー・アレルギー歴などに絡めて、下表のようなアドバイスや指示が医療者からもなされていましたが、現在は変化しています。

### ■ アドバイスや指示の変化

かつては…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中や授乳中はアレルギーを起こしやすい食品を食べてはいけない</li> <li>・離乳食もできるだけ遅らせ、アレルギーを起こしやすい食品の摂取を制限する</li> </ul>
現在は…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の食事制限や、離乳食を遅らせる等の必要はない</li> <li>・生後間もなくから積極的に、保湿や皮膚炎治療などのスキンケアをおこなう</li> </ul>

上記についてはいずれも、米國小児学会の声明（2008年）で否定的な見解が述べられており、基本的には母親の食事制限や、離乳食を遅らせる等の必要はない、それらがアトピー・アレルギーの予防にはならないとされています。

一方で、食物アレルギーは食べることでなく、バリアが破壊された皮膚（乾燥や皮膚炎を起こしているところ）で反復してアレルギーに触れることにより起こる、という説が言われるようになりました。裏付けとなるデータが多数報告されています。

それを根拠に、最近では食物アレルギー予防のため、生後間もなくから積極的に保湿や皮膚炎治療などのスキンケアをおこなっていくことが推奨されています。

当科では小児に限らず、アトピー性皮膚炎などに悩む患者さんを対象に継続的な治療を行い、良好な皮膚状態へ移行、維持できるようサポートしています。

## 陥入爪・巻き爪における、爪を温存する治療

陥入爪とは、爪の巻き具合にかかわらず、爪の縁が足ゆびの皮膚に食い込んで（陥入して）炎症を起こしている状態を言います。一方巻き爪は、爪が両側からの圧迫や角質増殖による押し上げ等により湾曲し、肉を挟んでしまう症状です。

陥入爪と巻き爪は別の病態（合併することはある）ですが、しばしば混同されることがあります。上記の通り陥入爪は「食い込み」により起こっているにもかかわらず、一般の方や医療機関において、消毒や抗生物質内服を続ける等の不適切な治療が行われているケースも多いようです。

また、一部の皮膚科では近年でも、陥入している部分を含めて抜爪し、薬剤で爪が生えないようにする手術が行われてきました。しかし、薬剤の処理が不十分で、後日おかしな形で爪が生えてきたり、うまくいっても爪が小さくなってしまふなどの問題点が指摘されています。

当科では爪（爪床・爪母）を温存した手術をおこなっており（図1）、爪の欠損や変形を起こすことなく「患者さん本来の爪の形にもどすこと」を目標としています。



図1

このほか、軽度の陥入爪であればテーピングで対応できることもあり、指導を行っています（図2）。



図2

巻き爪に対しては、マチワイヤという形状記憶合金のワイヤを用いて矯正を行っています。（図3・自費診療）

### ● マチワイヤ装着見本



### ● 治療経過



図3

従来の処置法に一工夫加えているため、装着に際し前もって爪を伸ばしておく必要がなく、装着後も基本的には日常生活を制限する必要はありません（抜けてしまうことは、たまにあります）。

このほか人工爪処置、硝酸銀処置などは外来自費診療にて対応しています（下記料金・税別）。

■ 初診料 … ￥4,230	■ 再診料 … ￥1,095
■ 処置料(1指につき) … ￥900	
■ マチワイヤ(1本/足親ゆびで約4回分) … ￥4,000	

## 難治性皮膚疾患に対する新規治療

アトピー性皮膚炎や蕁麻疹の最重症例、難治例に対し、新たに生物学的製剤が使用可能となっています。

現時点では適応基準により、使用できる患者さんに制限があり、かつ非常に高価な薬剤です。しかし、従来の治療では疾患のコントロールが極めて困難だった患者さんにおいても、高い治療効果が期待できます。